

令和7年度白山・奥美濃地域ツキノワグマ生息状況調査業務仕様書（案）

1 適用範囲

本仕様書は、「令和7年度白山・奥美濃地域ツキノワグマ生息状況調査業務」（以下「本業務」という。）に適用する。

2 目的

本業務では、ツキノワグマの白山・奥美濃地域個体群の個体数推定に必要な生息密度指標を得ることを目的に、誘引式カメラトラップ調査（斑紋識別法）を実施するとともに、各調査地におけるクマの個体ごとの検出履歴を用いて、空間明示型標識再捕獲モデルに基づくベイズ推定によって生息密度の事後分布を求める。

3 業務内容

本業務の内容は次のとおりとする。

（1）業務計画書の提出

- ・ 委託業務受注後速やかに管理技術者を定めるとともに、業務計画書を作成し、県の承認を得るものとする。
- ・ 業務計画書には、調査の目的、項目、具体的な方法、工程、その他留意点をまとめるものとする。

（2）誘引式カメラトラップ調査（斑紋識別法）の実施と個体数推定に向けたデータ処理

- ・ 誘引餌と自動撮影カメラを用いたトラップを用いてツキノワグマの胸部を撮影することで、胸部斑紋の特徴から個体を識別し、個体識別データを整理する。
- ・ 調査は、「カメラトラップ調査マニュアルーツキノワグマ胸部斑紋の安定的撮影手法ー（2012年2月12日第1版）」を参考に実施するものとし、調査地は以下の3地域に1区域ずつ設定すること。
 - ① 富山県（南砺地域）
 - ② 福井県（奥越地域）
 - ③ 岐阜県（揖斐地域）
- ・ 自動撮影カメラは各調査地山林内に概ね等間隔となるように25台程度設置し、設置地点において誘引餌を用いてツキノワグマを誘引すること。
- ・ 令和8年度に実施予定の地域個体群の個体数推定に活用するため、各調査地におけるクマの個体ごとの検出履歴を用いて、空間明示型標識再捕獲モデルに基づくベイズ推定によって生息密度の事後分布を求める。このとき、斑紋のない個体の情報も活用すること。
- ・ 無作為間引き空間明示型標識再捕獲モデル（Jiménez et al. 2020）を含む複数のモデルを試行し、各モデルにおける結果と考察を取りまとめること。

（3）報告書の作成

- ・ 報告書には、実施した個体数推定方法の概要および詳細、推定結果について記述するとともに、必要な図表等を掲載することとする。
- ・ その他報告書に添付した画像等の電子データを提出すること。

4 成果品の提出について

委託業務完了時、調査結果にかかる成果品（報告書 2 部、同電子データ 1 部）を提出すること。

5 打合せ協議

- ・ 業務の着手時に調査計画書により、打合せ協議を行うものとする。
- ・ 必要に応じて随時打合せを行うものとする。

6 協議事項

資料、報告書の作成にあたっては、必要に応じ当県と協議し作成するものとする。

7 納 期

最終報告書は、令和 8 年 3 月 1 0 日までに当協議会事務局（福井県自然環境課）へ提出するものとする。

8 実績報告

委託業務が終了した時は、速やかに実績報告書を提出する。

9 その他

調査内容は状況に応じて当協議会と請負業者の両者協議のうえ変更することができる。

業務執行にあたっては担当職員と常に密接な連絡をとり、本仕様書に示されていない事項、不明な点等疑義を生じた場合は、監督職員と協議のうえ、その指示に従うものとする。

成果品提出後に不足または不明な点が生じた場合においても、誠意を持って対処することとする。